

せずに一般医療機関を受診する。流行拡大期には、自分の診療所ではインフルエンザの診療は行わない、とするのはほとんど不可能となる。各地域の実情に合った対応策を考える必要がある。(5)重症例にはウイルス性肺炎よりも細菌性肺炎例や呼吸不全例が多く見られます。メキシコを除けば死亡率は0.1%で、軽症例が多い。メキシコの死亡例の多くは発症から1週間以上を経て受診して、細菌性肺炎を併発していた。重症例は基礎疾患や合併症を持っており、主なものは慢性呼吸器疾患、免疫低下～不全状態、慢性心疾患、糖尿病、肥満であるとしている。(6)一般予防策ではうがい、手洗い、マスクが効果的です。不要不急の外出を避け、人ごみにはなるべく出ないこと、外出時にはマスク着用、互いの咳エチケットの遵守、外出後のうがいと手洗いが必要である。(7)医療従事者の感染予防にはサージカルマスク、手洗い等が効果的です。(8)全ての医療機関が新型インフルエンザ対策を行うべきです。以上の8項目の提言を全ての医療機関において検討していただ

き、効果的な対策の行われることを望むと結ばれている。

北海道においては、札幌市在住の20代男性(6月11日、帰国)、帯広市在住の20代女性(6月14日、帰国)、胆振管内在住の70代男性(6月10日、帰国)、いずれもハワイから帰国した3名に新型インフルエンザ(A/H1N1)感染症の発生を認めたが、新型インフルエンザ感染対策として全ての保健所に発熱相談センターと、主な感染症指定医療機関等に52カ所(6月5日現在)の発熱外来を設置している。北海道医師会に長瀬清会長を本部長とする、「北海道医師会新型インフルエンザ対策本部」を設置して、日本医師会と北海道の新型インフルエンザ対策本部と協議して、新たに作成した「新型インフルエンザ対策に関する行動計画」に沿った対策を行います。北海道医師会の会員の皆様も、各々の地域で新型インフルエンザ感染症の対策を相談していただき、各自の医療機関においても感染症対策を検討していただきたい。

北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ例

パソコンをMacに変えたら使い方がよくわからない・・・ご利用方法をご案内
プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・ご利用方法をご案内
光電話ってどうしたら使えるの・・・光電話についてご案内、取次ぎも可能
エクセルの使い方がよくわからない・・・一般的な使い方であればご案内可能
サポートに来てほしい・・・駆けつけ業者を手配します(有料となります)

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター(平日 8:30～12:00、13:00～17:30)

○TEL: 011-738-3401

○E-mail: support@hokkaido.med.or.jp